

深谷赤十字病院の近況、ならびに臨床研究のすすめ

平成10年卒 松本直樹

はじめに —スタッフ紹介—

当院の産婦人科は長い間、山下恵一先生（元部長兼副院長、S48年卒）が牽引役となり、地域の中心的総合病院の一診療科としての責務を果たすべく診療を行ってまいりましたが、同先生は2011年3月をもって引退されました。そして2011年10月現在、下記の5名が常勤医として勤務し診療を行っています。

たかはし さちお
高橋幸男（S57年卒、現部長）

まつもと ちえこ
松本智恵子（旭川医大卒、現副部長）

すずき ながすみ
鈴木永純（H3年卒、現副部長）

まつもと なおき
松本直樹（H10年卒）

おさだ え
長田まり絵（聖マリアンナ医大卒）

深谷赤十字病院の現況

当院は埼玉県北部で最大の総合病院であり、また同部で唯一の地域周産期医療センターであります。産科部門では、母体搬送受け入れも含め地域のハイリスク妊娠症例を中心に管理を行っています。また、特に有名(?)な特色として、1991年から現在に至るまで継続している助産師外来ならびに助産師主導の妊娠管理システムが挙げられます。これは、いわゆる院内助産院ともやや異なり、ハイリスク例を含め医師と助産師とが協同して管理を行うシステムです。ハイリスク例といえども分娩自体に異常がなければ医師立ち会いなしで分娩が行われることもあります。

また、がん診療を含めた婦人科疾患の管理も行っています。しかしながら、産科部門の多忙さのため、婦人科疾患に関して手広い診療ができていない状況が続いています。広汎子宮全摘などの高度な悪性腫瘍手術や腹腔鏡手術は行っていません。それでも、総合病院であるがゆえ、合併症を有する症例や地域の診療所から依頼を受けた症例に対してはできる限り対応するように努力しています。

深谷赤十字病院の今後の展望

現状の診療範囲を大きく変えることは難しいのが現状ですが、腹腔鏡手術や不妊治療に関しては診療拡大の余地が残されているかもしれません。今後当院に派遣される先生が主体となって推し進めることもできると思います。またレジデントクラスの先生が派遣された際には、産科症例の経験はもちろん、基本的産婦人科手術の経験を多く積めることは間違いありません。この先、当院を希望して来てくれる先生がいることを願い、またお待ちしております。

私事

私はH10年に慈恵医大を卒業後、産婦人科学講座に入局。附属4病院の他、茅ヶ崎市立病院での診療を通じて経験を積みました。その後、2005年から深谷赤十字病院に勤務し現在に至ります。佐々木寛教授の指導のもと柏病院在籍時に開始した臨床研究（pT1卵巣明細胞腺癌における不整巨核細胞と予後因子としての臨床的価値¹⁾）を継続し、昨年ようやく研究成果をまとめ上げることができました。佐々木先生はもとより、田中忠夫先生、ほか研究に協力していただいた方々に感謝いたします。今後は父（松本常嘉、S43年卒）の経営する診療所（松本産婦人科医院、埼玉県本庄市）を継ぐべく新たな道に進んでいく所存です。

自主的な臨床研究のすすめ

前述のように、ここ数年間は日々の臨床と並行して臨床研究に努めてきました。しかしながら、臨床研究というものについての基本的知識が全くないところからのスタートでありましたので、当初は雲をつかむような状態でした。こちらに来てからは大学から離れた地域ですので身近な先輩にちょこちょこアドバイスを求めることもできず、やむなく臨床研究・臨床統計についての勉強も独学で始めました。しかしながらそれらを理解していくにつれ、いろいろと別の臨床上の疑問（clinical questions）に対しての研究もしてみたくなり、主論文が完成しないままたびたび横道にそれたりしました。結果としては、いくつかの別の研究成果も残すことができました。これらは全て、自身の診療の中での経験や反省をきっかけとしてまとめたものです²⁻¹¹⁾。

私も含め臨床医は日々診療を行っています。ではその際に、その診療方針の根拠に関してどれぐらいのエビデンスが存在しているか十分認識しているのでしょうか？ 実は多くの医療介入や治療方法に関してエビデンスが不十分なのが現状です。その解決のために最終的には、前向き研究やランダム化比較試験が要求される訳ですが、それ自体を行う前段階として症例報告を含めた後向き研究の蓄積が必要です。つまり、大がかりな研究でなくとも、それぞれの立ち位置ごとに研究の意義や価値はあるのです。上司に指示された研究ばかりでなく自主的に始める研究はやりがいのあるものです。ぜひ多くの先生たちにもチャレンジしていただきたいと思います。

業績

1. Matsumoto N, Umezawa T, Sasaki T, Nakajima K, Kanetsuna Y, Sasaki H. Clinical and prognostic value of the presence of irregular giant nuclear cells in pT1 ovarian clear cell carcinoma. *Pathol Oncol Res* 2011 ; 17 : 605 - 611
2. 松本直樹, 福田貴則, 鈴木啓太郎, 田部宏, 森裕紀子, 西井寛, 渡辺明彦, 落合和彦, 田中忠夫. 産婦人科領域における手術後の静脈血栓症リスクと予防的ヘパリン療法. *日産婦関東連会報* 2004 ; 41 : 349 - 357.
3. 松本直樹, 小高真弓, 大野孝子, 福山宏, 高山慶一郎, 篠塚正一. 経膈分娩に成功した脊髄損傷合併妊娠の1例. *産婦の実際* 2007 ; 56 : 961 - 966.
4. 松本直樹, 松本智恵子, 高橋幸男, 山下恵一. 「一絨毛膜二羊膜双胎の一児死亡」2症例の経験～実際の臨床現場・社会的な視点からの問題提議～. *日産婦埼玉会誌* 2008 ; 38 : 28 - 35.
5. 松本直樹, 中島一恵, 五味陽亮, 鈴木永純, 松本智恵子, 高橋幸男, 山下恵一, 宇都宮朋宏, 吉澤幸弘, 平澤邦夫, 湯浅昌之, 伊古田勇人. 遷延一過性徐脈に対し速やかに鉗子分娩を実施したにもかかわらず救命できなかった重度新生児仮死の1症例. *周産医学* 2009 ; 39 : 1444 - 1452.
6. 松本直樹, 五味陽亮, 新坂真実子, 江良澄子, 長田まり絵, 鈴木永純, 松本智恵子, 高橋幸男, 山下恵一. 胎児心拍陣痛図による分娩時リアルタイムマネージメントの院内助産への応用. *日*

- 産婦関東連会誌 2010；47：17-25.
7. 松本直樹, 新坂真実子, 長田まり絵, 鈴木永純, 松本智恵子, 高橋幸男, 山下恵一. ゲンタマイシン軟膏使用中に短期間で完全消失した女性外陰部の巨大尖圭コンジローマの1例. 産と婦 2010；77：457-461.
 8. 松本直樹, 長田まり絵, 江良澄子, 鈴木永純, 松本智恵子, 高橋幸男, 山下恵一. 胎児心拍陣痛図による助産師リアルタイムマネジメント. 周産医学 2011；41：120-125.
 9. 松本直樹, 江良澄子, 長田まり絵, 鈴木永純, 松本智恵子, 高橋幸男, 山下恵一. 実際の医療体制上の制約を考慮した妊娠分娩管理についての説明文書・同意書の作成, ならびにそれに関するアンケート調査. 周産医学 2011；41：411-415.
 10. 松本直樹, 八百陽介, 松尾めぐみ, 長田まり絵, 鈴木永純, 松本智恵子, 高橋幸男, 山下恵一. 産婦人科以外を初診した異所性妊娠症例の臨床的特性—異所性妊娠65例の後方視的検討—. 日産婦関東連会誌 2010；48：
 11. 松本直樹, 黒崎修平, 馬場章, 長田まり絵, 深谷普子, 鈴木永純, 松本智恵子, 高橋幸男. 妊娠・分娩・産褥期に突発的な神経学的症状を認めた18例の後方視的検討. 産婦の実際 2011；60：

施設名	深谷赤十字病院
-----	---------

2010年もしくは2010年度臨床統計

周産期	分娩数	523 件
	帝王切開数	206 件
	その他の産科手術数（シロッカー手術など） （異所性妊娠手術含まず、子宮内容除去術含まず）	3 件
	母体搬送受け入れ数	件
婦人科	手術数（異所性妊娠手術、LEEPなどの円錐切除を含む） （帝王切開やその他の産科手術を含まず） （子宮内容除去術、子宮内膜試験搔把含まず）	105 件
	悪性腫瘍（浸潤がん）手術数（肉腫含む） （CINや卵巣境界悪性腫瘍を含まず）	22 件
	腹腔鏡（補助）下手術、子宮鏡下手術数	0 件
生殖	採卵数	0 件
	胚移植数	0 件
	人工授精数	0 件

アンケート

現在分娩数の制限はありますか？		
なし		
あり		月 件
現在初診から手術までどれくらいかかりますか？		
悪性腫瘍手術	約 20 日	
腹腔鏡（補助）下手術	約 一 日	
その他の婦人科手術	約 80 日	
ぜひ、紹介して欲しい疾患や積極的に行っている治療法などありましたら記載して下さい。		

